



合同研究会の実施レポート

日時：2026年3月14日(土) 10:00～11:30 開始

場所：[タワーホール船堀](#) 会議室 302 号室

【プログラム】

開会の挨拶（10:00～10:10）

山崎弘子（日本ニュージーランド協会会長）

研究報告（60分、質疑応答含む）

矢島宏紀（昭和女子大学）

『ニュージーランド「建国の解釈」ーワイタング条約を中心に』

閉会の挨拶（11:10～11:20）

武田真理子（日本ニュージーランド学会会長）

2026年度の合同研究会が3月14日(土)に開催されました。昭和女子大学の矢島宏紀先生がニュージーランド「建国」の解釈ーワンタング条約に関して発表されました。

ニュージーランドの建国に関して、あらためて異なった解釈があることを学びました。

ワイタング条約の意義は：

マオリ族とイギリス人入植社との争いを避ける目的で調印されました。

ですが、ニュージーランドの基礎となる文章ですが解釈の違いから後の土地紛争や権利問題の原因となっています。

アメリカの独立宣言などと比較しますと、ニュージーランドの「建国」は特定の年をもって確定するのが難しい側面がある。しかし、一般的にはイギリス政府と先住民マオリ族の間でワイタング条約が終結された1640年が、法的な意味での建国として特に重要視されています。

流れとしましては、

1942年 オランダ人タスマンがヨーロッパ人として初めて到達。

1769年 イギリス人クックが領有を宣言。

1840年 イギリス政府とマオリ族間でワイタング条約が終結。

ワイタング条約終結後、ニュージーランドはイギリスの植民地となる

1907年にはイギリス連邦内の自治領(ドミニオン)となり、

1947年に正式にイギリスから独立しました。

上記がニュージーランドへの入国の一般的な歴史の理解です。

12時からの昼食は、場所を日本料理店「築地 植村」移動し、多方面に渡るたくさんの話題で大いに盛り上がり、大変楽しい、有意義な時間となりました。対面でのコミュニケーションは暖かい雰囲気でした。

日本ニュージーランド協会会長

山崎 弘子